



発行所 社会福祉会 宗像大社 毎月十五日発行 定価 一年送料共 1000円

神具 装束 結婚式用品 株式会社 井筒 本社 九尾店 福岡市博多区東公園二丁目二十八番

宗像大社文書編纂刊行事業

いよいよ始まる



当大社本年の念願であった文書編纂刊行事業が、いよいよ発足の運びとなった。

第一巻は神官・院宣・八条院行下・雑断所収の順に二十二通がまとめられ、

江戶時代から引続いて大宮司の御教書が殆んどを占め、二十九通を以て第一巻に仕立てられている。

第二巻は、諸家奉納文書、出光氏、豊田氏、三浦氏、前宗像大社復興期成会長の

以上が当社所蔵文書の概略であるが、この外にも四千三百三十一巻の色定法師書写、筆一切経、(重文)

「歴史研究の根本資料は文書・記録であるが、我が日本は世界に於ける文書・記録の最大の保有国であり

（評）歴史は多く阿寒湖に生じると知れば「真清水に持つ」という事はいえよう。

（評）歴史は多く阿寒湖に生じると知れば「真清水に持つ」という事はいえよう。

論説

かねて政府が宿題としていた靖国神社公式参拜の問題に関する懇談会が、

官房長官も「何らかの結論を出して貰う」というより、勉強をかねてもらう

「靖国懇」発足に思う

従来、靖国神社公式参拜に関する政治的、社会的地位を示す絶

昨年八月、中曽根首相は、靖国神社参拜にあって記者団等に質問された

「歴史研究の根本資料は文書・記録であるが、我が日本は世界に於ける文書・記録の最大の保有国であり

（評）歴史は多く阿寒湖に生じると知れば「真清水に持つ」という事はいえよう。

（評）歴史は多く阿寒湖に生じると知れば「真清水に持つ」という事はいえよう。

（評）歴史は多く阿寒湖に生じると知れば「真清水に持つ」という事はいえよう。

もともとこの、従来の政府統一見解の論にすぎないことは、もちろん明瞭である。しかも「違憲ではないか」と

「靖国懇」発足に思う

従来、靖国神社公式参拜に関する政治的、社会的地位を示す絶

昨年八月、中曽根首相は、靖国神社参拜にあって記者団等に質問された

「歴史研究の根本資料は文書・記録であるが、我が日本は世界に於ける文書・記録の最大の保有国であり

（評）歴史は多く阿寒湖に生じると知れば「真清水に持つ」という事はいえよう。

（評）歴史は多く阿寒湖に生じると知れば「真清水に持つ」という事はいえよう。

（評）歴史は多く阿寒湖に生じると知れば「真清水に持つ」という事はいえよう。

（評）歴史は多く阿寒湖に生じると知れば「真清水に持つ」という事はいえよう。



# 源頼朝公文書奉納式

## — 四百年ぶりに里帰り —

去る八月八日、当大社本殿に於て文書奉納式が執り行われた。



奉納文書は「源頼朝書状」二通、奉納者は島根県益田市在住の病院長 長沼正光氏(六二)である。

この書状は源頼朝が壇の浦で平家を滅ぼして約四ヶ月後の元暦二年(一一八五)八月五日、前左近衛少将藤原隆房に与えたものである。縦二十六糎、横五十七糎の和紙に墨書されているが、文意は次の通りである。

「その件については盛俊(家臣の名)より聞いた。當時のことは忘れておらず、おろそかにしては決してない。上落などの折に會つてお話ししよう。大藏卿(大藏省の長官)を口懸に仕えることについてはお断りしよう。また、肥前国朝氣領を志して与える。大層なことではなく志(好意)とて与えるのだ。委しくは盛俊に言つてある。」

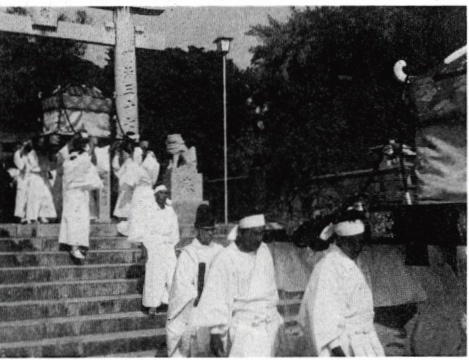
この本文は右筆(ゆうひつ)の書いたものであるが、文(文章)が判らなかつた。現在当社に所蔵されているが、録等の重要部分はこれであらう。しかしその他の文書類は散逸し、この類書状も一行方が判らなかつた。

### 祭典と行事日程

- 九月三十日 午後六時 総社宵宮祭
- 十月一日 午前九時三十分 大島港出発 海上神幸 神湊港到着
- 午前十一時三十分 神湊電宮祭
- 午前十一時三十分 中津宮入御祭
- (主基地方風俗舞奉納)
- 十月二日 午前八時 流籠馬 午前十一時 (翁舞奉納)
- 十月三日 総社祭 午前十一時 (郡内神職奉幣・氏子奉幣・浦安舞奉納)
- 午前十一時四十分 高宮祭
- 第二宮・第三宮祭
- 宗像護國神社秋季大祭 献茶祭 午後二時 (南坊流)



(流籠馬神事)



(中津宮御発輦の御神廳)

## 神郡社寺めぐり

### 大森神社 (宗像郡福岡町)

今年の夏は、例年にもまして暑かった。冷夏だ冷夏だと云われたのに、神のつかい)として尊厳し、雨のつきはじめた初秋、宗像郡福岡町西郷の大森神社を参拝した時、残暑は厳しかつた。

国道三号線の西郷インターを下り百メートル飯塚方面に走り、種穂実る田んぼの中を小高い丘に向つて折る奥道がある。これを右折して進むこと約半キロ、十字路を左折すると、大森神社の石鳥居が見える。この大森神社の鎮座される、上西郷、下西郷、手光、津丸地方には昔からの云伝えで「鮭」を食せず、と云う伝説がある。

稲穂が実る落ち水の頃と云うと、農村では特にウナギ、鮭、コイ、フナ等がおおいくなり、これの捕獲は年中行事の風物詩であるのに、なぜだろうと思ふ。理由の思ひが、この神社参拝の理由でもあった。大森神社は、昔西郷養牛神社也(上・下西郷・伊藤氏のデザイン)と聞かれた。永正八年北洛船岡山合戦の時、宮内河津民部少輔興光は管領河内義興に從ひ、京に在りて戦功有る。この養生地は山河の美しい農村風景をこの緑深いところである。

我が国歴史学会の泰斗、九州大学名誉教授、長沼正光氏は昭和三十三年頃、山海氏に昭和古美術商「右大将頼朝公文書」と墨書した、古い杉箱に収められた軸物一巻を見つかり買求められたが、この文書が源頼朝書状であった。偶然の発見といへば当社は、この書状の複製を代々隆頼の子孫に伝えられたが、文永八年(一一七九)その子孫藤原長房が四十八代大宮司宗像長氏の妻となった関係で、その子である大宮司盛俊がその地頭職を伝領し、これが機縁となつて当社領となつた。その後三百年余り、七十九代宗像氏員に男児が無く、宗像大宮司家は断絶したが、氏員の息女は周防の草野太郎左衛門重継に嫁した。その時大宮司家に代々伝へられた文書、記録を持参したため大半の資料が草野家に移つた。天明七年(一七八七)そのうちの多くが当社に返還された。現在当社に所蔵されている文書類は散逸し、この類書状も一行方が判らなかつた。

この日、長沼氏は田村館長を同道され本殿に文書を奉献。神事後、兼津宮司より長沼氏に感謝状と記念品を贈り、深甚なる感謝の意を述べた。

末の花押(かお) (署名)は頼朝の直筆である。この文書は頼朝が藤原隆頼に對し、肥前国朝氣(現佐賀県小城郡小城市町田)を与えた書状である。當時は所領の譲渡を明記した譲状は領有権を証明する大事な証文であった。この朝氣領は代々隆頼の子孫に伝えられたが、文永八年(一一七九)その子孫藤原長房が四十八代大宮司宗像長氏の妻となった関係で、その子である大宮司盛俊がその地頭職を伝領し、これが機縁となつて当社領となつた。その後三百年余り、七十九代宗像氏員に男児が無く、宗像大宮司家は断絶したが、氏員の息女は周防の草野太郎左衛門重継に嫁した。その時大宮司家に代々伝へられた文書、記録を持参したため大半の資料が草野家に移つた。天明七年(一七八七)そのうちの多くが当社に返還された。現在当社に所蔵されている文書類は散逸し、この類書状も一行方が判らなかつた。

神郡の仲秋を飾る秋季大祭まで残すところあとわずかなり。宗像市郡民をあげての祭りとして親しまれているが、その初頭を飾る海上神事の合せが、残暑厳しく九月一日折額議会室に於て行なわれた。

当日は郡内七浦の漁業協同組合長、水産救済会各所長出席の下、当社宮司以下職員と熱心な審議が行なわれた。この放生会は魚鳥等の人に捕えられた生類を買い集めて放ちやる儀式である。







### 宗像大社歌会 俳句作品集(五)

鐘崎 岩瀬 辰夫  
先輩に誉められて嬉しき菊  
作り

津屋崎 井浦 良介  
風止祭水車の上の雲愛(う  
るわ)し

香椎 坂矢クニコ  
秋祭り宗像大社の歴史かな

田熊 安部 ゆき  
暮れなずむ窓辺凌霄花明り

東京 白木 静江  
宿坊の眠りは浅く青葉木宛

津屋崎 西住喜三郎  
ありもので済まず昼餉や蟬  
時雨

福岡中央丸ゆする  
新涼の渚独りの足の跡

名古屋 野崎 傳三  
広島に平和の鐘や七つ鳴る

名古屋 原田 道子  
秋空へ光放つや金の鱈

福岡 広渡一寿軒  
古古米も蔵さらえり稲の  
出来

藤沢 井上 玄洋  
波がしら波止場を叩き野分  
過ぐ

田熊 力丸 一郎  
一望の青田に注ぐ水走る



## 玄界沿岸地名探訪

ちよつと休憩

(7)



日本地名研究所 3F

この夏、キャプテン・クックの「太平洋航海記」(現代教養文庫、荒正人訳)を読みました。この本を一緒に帆船に乗り、太平洋を行くような気分になります。夏にはもってこいの読物でしょう。

クックは、前後十二年間、三回の航海を行なっています。第一回は一七八八年八月、三三〇トンの帆船「エンデヴァー」で、金星の目録観測を第一目的、第二を南海の探検として、イギリスのプリマスを解航。

第二回は一七七二年から南極と世界周航をめざし、四六二トンの「ロビンソン」号と、三三六トンの「アドヴェンチャー」号で行っています。

第三回は、一七七六年から一七九九年まで、太平洋と北半球探検のため、二艘と呼んでいます。

この夏、キャプテン・クックの「太平洋航海記」(現代教養文庫、荒正人訳)を読みました。この本を一緒に帆船に乗り、太平洋を行くような気分になります。夏にはもってこいの読物でしょう。

クックは、前後十二年間、三回の航海を行なっています。第一回は一七八八年八月、三三〇トンの帆船「エンデヴァー」で、金星の目録観測を第一目的、第二を南海の探検として、イギリスのプリマスを解航。

第二回は一七七二年から南極と世界周航をめざし、四六二トンの「ロビンソン」号と、三三六トンの「アドヴェンチャー」号で行っています。

第三回は、一七七六年から一七九九年まで、太平洋と北半球探検のため、二艘と呼んでいます。

雙の軍艦で行き一七七九年、ハワイのオハイイ島で原住民とのトラブルによって殺されてしまいます。

この「航海記」を読みますと、未知の太平洋、初めて見る世界、島嶼群、そう言う発見のなかで島名やそれぞれの地名がつけられています。それが分り大変興味深いものがありました。

第一回の航海では、航海の大きな目的である天候、観測などをしながら航海を行っていますが、ニュージーランドでは、水星湾と名付けたり、西北に散在する数多くの島々を水星諸島の名を与えています。

オーストラリアの植物学記述の部分を見ます。一七七〇年五月六日に、植物学湾を航出した。この植物学湾は、非常に沢山の植物を採集したために、クックによってつけられたものです。

正午には、ジャックス湾(シドニー近)の沖合に出で、夕刻には破れ湾(ブローケンベイ)に近づいています。

一日には、陸地が突き出た所から岬で、煙(けむり)を見つけた。煙(けむり)の正午には、陸地が突き出た所から岬で、煙(けむり)を見つけた。煙(けむり)の正午には、陸地が突き出た所から岬で、煙(けむり)を見つけた。

さらに北へ二九〇キロ、高く突起した陸の一角を発見し、パイロン岬と名づけています。

二三日には、ここに上陸をし探検していますが、緑色の奇妙な鱗が果を作っているのや、緑色の蝶が飛んでいるのを見えています。ペリカンらしい鳥が沢山遊んでいるのを目撃したり、種々の牡蠣や貝類等を見つけています。次の日には回帰線の直下に横たわる岬と並行して進んでいます。クックはこの岬を南回帰線岬と呼びました。

二七日の朝、船は北へ向い、最北端の陸地に、ケイブニア岬(ケイブニア岬)と名づけてきました。一度、岬と海岸をこの岬の湾で適切な掃除しようとして、船底の掃除を断念します。

重畳岬の西北約六〇キロにあるクレーヴランド岬を通過した後に、一群島のある方に向かい、海岸沿いに北上し、その日が丁度復活日あたり、湾を発見したので復活湾(トリエ

テイベイ)と名づけます。以上は、ほんの例です。クックの航海では、その日の事件や、行事、勿論、島々の形状などによって、次から次へ名前がつけられていきます。

クックの航海記を記すだけでもないですが、案外このように、何かそれらしい意味を持っています。人の感じた印象というものが、クック等がつけた名前がニュージーランドや、オーストラリアあたりの地名に残っているのか、また(原)地住人も当然、自分達の行動、生活範囲の中で、地名を付けたことと思います。それが、それがどのように今日使われているのか知りたくなっています。

●玄界地名探訪を書きながら、何人かの人から書き留めて、日本地名研究所に送って、教えて呉れたいという、地学的な観点から、科学的・体系的な地名研究をめざすと同時に、地名を通じて、日本の風土に関する研究を行なうの確立を期すことを目的としています。

△以下次号へつづく▽

員会・川崎市共催、神奈川「宗像」での決議をうけて、同年十月二十日に川崎市において設立されました。

地名の保存と重要性を訴えたこの「地名(国)シンポジウム」は、折から住居表示法による全国的な地名改革とそれに対する批判的動きを背景として開催されたものであり、全国的にも反響をまきおし、地名に対する認識を深める上で大きな役割を果たし、シンポジウムには、一般市民、研究者、学生、自治体関係者などが多数参加し、二日間わたり熱討が展開されました。「このままでは地名が消える」「地名は大切な文化財」という危機感がシンポジウムを白熱化させたものでしょう。

このような経過を経て、発足した日本地名研究所は、従来ばらばらであった昭和三十六年より四十七年の十一年に「宗像伝説」を

神部の伝統をひく宗像に、伝説が豊富であった。その間に宗像の名が持つ信仰の神秘性を多分に示している。現代を生きるわれわれも、素直に先人の心の生活をのぞいて、その社会観、道義観、宗像観を眺めたいものである。そして敬い、神皇祖の信仰をはじめ、孝貞真人の節操など、郷土宗像にはぐくまれた心の花を、郷土愛を高める好資料として育て、後世に語り次ぐ資料として、精神生活の糧としていただければ幸いです。

「編集によせられた」は、社報「宗像」が昭和三十三年に誕生して、二十四年の歳月が流れた。この間、昭和三十六年より四十七年の十一年に「宗像伝説」を掲載しよせられた。この間、昭和三十六年より四十七年の十一年に「宗像伝説」を掲載しよせられた。この間、昭和三十六年より四十七年の十一年に「宗像伝説」を掲載しよせられた。

### 『宗像むかし話』 再掲載のお知らせ

掲載した。それからさらに十年の月日が流れ、その間に宗像市が誕生し、その間に大きく変貌した。人口も増え、加えて若い読者層も増えた中で、再度「宗像の伝説」の掲載を望む声が高いので、この要望に答へ、十月より「宗像伝説」の中より、郡民の方々に、神部の古き伝統をさらに理解していただき、先人の心を郷土愛として育て、後世に語り次ぐ資料として、精神生活の糧としていただければ幸いです。

又、一般読者の人々より「昔ばなし」「伝説」を募集願っていますので、御協力をお願い申し上げます。再掲載のお知らせを致します。

### 【雑記】

#### 水と人間生活

日本の水はおいしい。世界にもこれほど水がおいしい国はないと思う。ヨーロッパの水は一般的に硬い。フランスでは水代わりにワインを飲み、ドイツではビールを飲むらしい。水は人間生活にとって不可欠である。そのため日本でも宗教儀礼の対象や供物とされたり、宗教的儀礼に使用されることが多い。

宗教的儀礼に使用される例に、神道に於ける彼への「みそぎ」は神祭に先だって、水で心身について罪やけがれを清くする儀礼である。これについては「古事記」に見えているように、伊弉諾岐命が黄泉の国から帰られて、体が穢れたといひ、筑紫日向の橘の小戸原で水に入りて身を清めたといひ、有名な伝承と与えてくれる。

### 保存に関する事業沿革 (上)

宗像大社が新たに神宝館を建設し、オープンしたのノ鳥は当時の姿がそのまま昭和五十五年十一月八日現在に生き続け、古代社である。菊花薫る季節がお会のある方と、祭祀の根拠とすれ各地で、文化行事が、又時代の交差に即応して盛大に執り行なわれている。祭形形態の移り変りや研究の進歩、宗像大社が保存に携わってきた文化財に

宗像大社が新たに神宝館を建設し、オープンしたのノ鳥は当時の姿がそのまま昭和五十五年十一月八日現在に生き続け、古代社である。菊花薫る季節がお会のある方と、祭祀の根拠とすれ各地で、文化行事が、又時代の交差に即応して盛大に執り行なわれている。祭形形態の移り変りや研究の進歩、宗像大社が保存に携わってきた文化財に

宗像大社が新たに神宝館を建設し、オープンしたのノ鳥は当時の姿がそのまま昭和五十五年十一月八日現在に生き続け、古代社である。菊花薫る季節がお会のある方と、祭祀の根拠とすれ各地で、文化行事が、又時代の交差に即応して盛大に執り行なわれている。祭形形態の移り変りや研究の進歩、宗像大社が保存に携わってきた文化財に

宗像大社が新たに神宝館を建設し、オープンしたのノ鳥は当時の姿がそのまま昭和五十五年十一月八日現在に生き続け、古代社である。菊花薫る季節がお会のある方と、祭祀の根拠とすれ各地で、文化行事が、又時代の交差に即応して盛大に執り行なわれている。祭形形態の移り変りや研究の進歩、宗像大社が保存に携わってきた文化財に

宗像大社が新たに神宝館を建設し、オープンしたのノ鳥は当時の姿がそのまま昭和五十五年十一月八日現在に生き続け、古代社である。菊花薫る季節がお会のある方と、祭祀の根拠とすれ各地で、文化行事が、又時代の交差に即応して盛大に執り行なわれている。祭形形態の移り変りや研究の進歩、宗像大社が保存に携わってきた文化財に

宗像大社が新たに神宝館を建設し、オープンしたのノ鳥は当時の姿がそのまま昭和五十五年十一月八日現在に生き続け、古代社である。菊花薫る季節がお会のある方と、祭祀の根拠とすれ各地で、文化行事が、又時代の交差に即応して盛大に執り行なわれている。祭形形態の移り変りや研究の進歩、宗像大社が保存に携わってきた文化財に

宗像大社が新たに神宝館を建設し、オープンしたのノ鳥は当時の姿がそのまま昭和五十五年十一月八日現在に生き続け、古代社である。菊花薫る季節がお会のある方と、祭祀の根拠とすれ各地で、文化行事が、又時代の交差に即応して盛大に執り行なわれている。祭形形態の移り変りや研究の進歩、宗像大社が保存に携わってきた文化財に

### 文化財についての考え

松子

宗像大社が新たに神宝館を建設し、オープンしたのノ鳥は当時の姿がそのまま昭和五十五年十一月八日現在に生き続け、古代社である。菊花薫る季節がお会のある方と、祭祀の根拠とすれ各地で、文化行事が、又時代の交差に即応して盛大に執り行なわれている。祭形形態の移り変りや研究の進歩、宗像大社が保存に携わってきた文化財に

宗像大社が新たに神宝館を建設し、オープンしたのノ鳥は当時の姿がそのまま昭和五十五年十一月八日現在に生き続け、古代社である。菊花薫る季節がお会のある方と、祭祀の根拠とすれ各地で、文化行事が、又時代の交差に即応して盛大に執り行なわれている。祭形形態の移り変りや研究の進歩、宗像大社が保存に携わってきた文化財に

宗像大社が新たに神宝館を建設し、オープンしたのノ鳥は当時の姿がそのまま昭和五十五年十一月八日現在に生き続け、古代社である。菊花薫る季節がお会のある方と、祭祀の根拠とすれ各地で、文化行事が、又時代の交差に即応して盛大に執り行なわれている。祭形形態の移り変りや研究の進歩、宗像大社が保存に携わってきた文化財に

宗像大社が新たに神宝館を建設し、オープンしたのノ鳥は当時の姿がそのまま昭和五十五年十一月八日現在に生き続け、古代社である。菊花薫る季節がお会のある方と、祭祀の根拠とすれ各地で、文化行事が、又時代の交差に即応して盛大に執り行なわれている。祭形形態の移り変りや研究の進歩、宗像大社が保存に携わってきた文化財に

宗像大社が新たに神宝館を建設し、オープンしたのノ鳥は当時の姿がそのまま昭和五十五年十一月八日現在に生き続け、古代社である。菊花薫る季節がお会のある方と、祭祀の根拠とすれ各地で、文化行事が、又時代の交差に即応して盛大に執り行なわれている。祭形形態の移り変りや研究の進歩、宗像大社が保存に携わってきた文化財に